

西光寺だより

第九十九号 平成三〇年十一月一日発行

●今月のことば●

『秋季永代経法要のご法話より』

さて今回の秋季永代経法要の宮部布教使のお話し、各家にあるお仏壇についてのお話しがございました。お逮夜参りの際にもその話題が度々聞かれる事とございました。ここで今月の言葉として少しお話しをしてみたいと思います。

みなさんのお仏壇の正面の阿弥陀様の両脇のお掛軸、右横左横をお脇掛けといい、絵像と文字（名号）があり、それは、右横は親鸞聖人の絵像か『帰命尽十方無碍光如来』という文字（名号）が書かれてあり、左横は蓮如上人の絵像か『南無不可思議光如来』という文字（名号）が書かれています。お脇掛けは、絵像でも文字（名号）でもどちらでも構いません。

お話しにもありましたように絵像の場合（左写真上）は正面同様お仏飯をお供えし、文字（名号）なら（左写真下）お仏飯はお供えしません。

※ただし正面は絵像でも文字（名号）でも必ずお仏飯をお供えします。



蓮如上人絵像

親鸞聖人絵像



九字名号

十字名号

絵像では右脇に浄土真宗をひらかれた親鸞聖人、左脇に浄土真宗の教義を御文章のお手紙で世に多く広められた蓮如上人。文字（名号）は、南無阿弥陀仏は限りない寿命と光明を信じ、その教えにしたがうという意味。この南無阿弥陀仏を漢語（中国語）で表記したものが帰命尽十方無碍光如来（十字名号）と南無不可思議光如来（九字名号）であります。当時親鸞聖人は南無阿弥陀仏（六字名号）を語るとき九字・十字の名号を引用して意味を明らかにされてきました。

そしてお話しの中では大阪などではお仏飯は三つより一つの方が楽なので文字（名号）の方が多いといった事を冗談まじりで楽しくお話しされておられました。普段何気にお仏壇を見ている中ではなほどと感ずる時間でありました。

ではなぜお仏飯を御供えしないといけないのか？そして絵像と文字（名号）ではなぜ御供えしなくてもよいのか？疑問があります。

お仏飯は、『僧祇律』の「如来一食を以ての故に身体軽くして便ち安楽住を得」と書かれてあるように、お釈迦様の時代には、食事をするのが午前中の一度だけであり、午後は食事の時間ではなかったとされ、その名残りで昼までには下げることとなったそうであります。

お仏飯は炊き立ての一番新しいものをお供えし、お参り後下げていただく。お供えすることを通して、主食であるお米をいただくことにより命が長らえて、その恵みのおかげで尊い仏法を聞くことができると、感謝の思いで味わいたいものであります。

そして絵像と文字（名号）ですが、お仏飯をお供えするのは絵像。お供えないのは文字（名号）。絵像は尊く敬う存在へのお供えだからであります。文字（名号）で表わされたものは南無阿弥陀仏の引用だからお供えしないという事であります。

最後にお仏飯の盛り方は蓮実形（円柱形）と蓮苔形（山なり形）があり、蓮の蕾のように美しく少し上を山のように盛ります。上を平らにはしませんのでご注意を。

これからも皆さんと共に学んでいけたらと思うことでもあります。合掌

◆先月の報告◆

①十月十四日(日)、西光寺本堂にて秋季永代経法要を厳修致しました。多くのご門徒の皆さんと、午後二時から阿弥陀経、七時から正信偈のお勤めをし、皆様で宮部布教使のご法話を聴聞致しました。

またこの度の大阪北部地震の境内・太鼓楼・本堂の修復費用の説明を筆頭総代よりご報告させていただきました。皆様の貴重な講金より算出致しましたこと、本当に感謝の思いであります。ありがとうございました。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

◆十一月・十二月の行事◆

・十一月 二十三日(金・祝)

報恩講法要

午後二時・七時

西光寺本堂

◎御法話

本願寺派布教使

和氣 秀剛 師

・十二月 十日(月)〜十一日(火)

茨木東組念仏奉仕団

京都西本願寺

・十二月 三十一日(月)

除夜の鐘

午後十一時五〇分頃より

西光寺鐘楼